

参考資料 2 第32回奈文研総合研究会での「奈文研MVS2022」に関する議論

はじめに

奈良文化財研究所では、創立70周年を迎える2022年度に、累積課題を整理するとともに、今後の10年を展望した「奈文研MVS（Mission、Vision、Strategy）2022」（以下「奈文研MVS2022」という）の策定を目指し、現在所属する職員の意見交換の場として、2022年1月26日に第32回総合研究会を開催することとした。

当初は、ブレインストーミング形式による対面でのグループワークと議論を、ファシリテーター役が取りまとめたうえで討論を行う予定であった。しかし、COVID-19の蔓延などにより、個々のグループに分割し、2022年2月1日～2月8日にガールン内のスペース上において各自が課題について意見を述べ、それらの結果を各グループのまとめ役が集約することとした。

本文書は、上記の過程で集約した意見を8項目に大別し、各項目に基づく論点を簡便に示したものである。

なお、本報告書の内容については、2022年7月4日13:30～16:30に開催した臨時総合研究会（於：平城宮跡資料館講堂）において中間的なとりまとめ報告と議論を行った。その成果を踏まえ、最終的に奈良文化財研究所70周年記念誌『奈良文化財研究所七十年の軌跡』（以下「記念誌」という）において「奈文研MVS2022」として公開した。「奈文研MVS2022」の基礎は総合研究会における議論にあるが、記念誌ではその経緯について詳述しなかったため、本報告書では総合研究会に至る議論の経緯と内容についてまとめることとした。

1. 意見の集約方法

各所員から寄せられた意見については、個人の特定などを極力行わないことを前提として内容を確認し、近似する意見を統合してグループ化するとともに、それらの概要に表題を付して樹形図として再配列および構造化をおこなった。その結果、一群の意見を8項目に大別することができた。

また、ブレインストーミングなどのグループワークやワークショップの経験が少ない所員の意見の中には、個別の課題を短文により表現するのではなく、複数の内容を長文により表現したものも見られた。同じく、まとめ役が意見集約の過程で取りまとめたと思われるものもあり、発話者の原意を反映したものであるのか否かが不明のものもあった。

このような問題が指摘できるものの、前者に関しては、文中の要素をもとに分析者が適切に文章を分割・再構成し、基本的にひとつの命題を一文により記述するという原則に基づき整理を行った。

2. 全体の概要

寄せられた意見および新たに表題を付加した項目の総数は1,672件であった。これらを近似する意見毎に集約・統合し、次の8項目に大別することができた。以下、各項目に括弧書きで付記した

数字は、寄せられた意見の数を示す。

- 1) MVS議論について (68)
- 2) 文化財への視点 (54)
- 3) フィールドの重要性 (106)
- 4) 奈文研のあり方 (858)
- 5) 手法・技術 (95)
- 6) 情報公開 (321)
- 7) 連 携 (108)
- 8) SDGsへの取り組み (62)

3. 各項目での論点

上記8項目では、次のような論点が見られた。

(1) MVS議論について

- ① MVSに関する議論の課題
- ② 総合研究会の運営について
- ③ MVSの意義
- ④ その他、MVSに関する議論について

(2) 「文化財」への視点

- ① 文化財の価値とは
- ② 社会の中の文化財
- ③ 文化財の保存

(3) フィールドの重要性

- ① フィールドとしての奈良について
- ② フィールドの意義
- ③ 奈文研にとっての発掘調査の位置づけ
- ④ 史跡を調査研究することについて

(4) 奈文研のあり方

- ① 奈文研の役割
- ② 組織構成の課題
- ③ やりたいこと・やるべきこと
- ④ 組織としての意思決定について

- ⑤ 予 算
- ⑥ 人 材
- ⑦ 成果の評価
- ⑧ 業務の課題

(5) 手法・技術

- ① どのように技術開発を進めるのか
- ② 手法・機材等の共有
- ③ 研究機器
- ④ 必要な人員の確保
- ⑤ 技術に対する姿勢
- ⑥ 必要な技術開発
- ⑦ 連携の促進

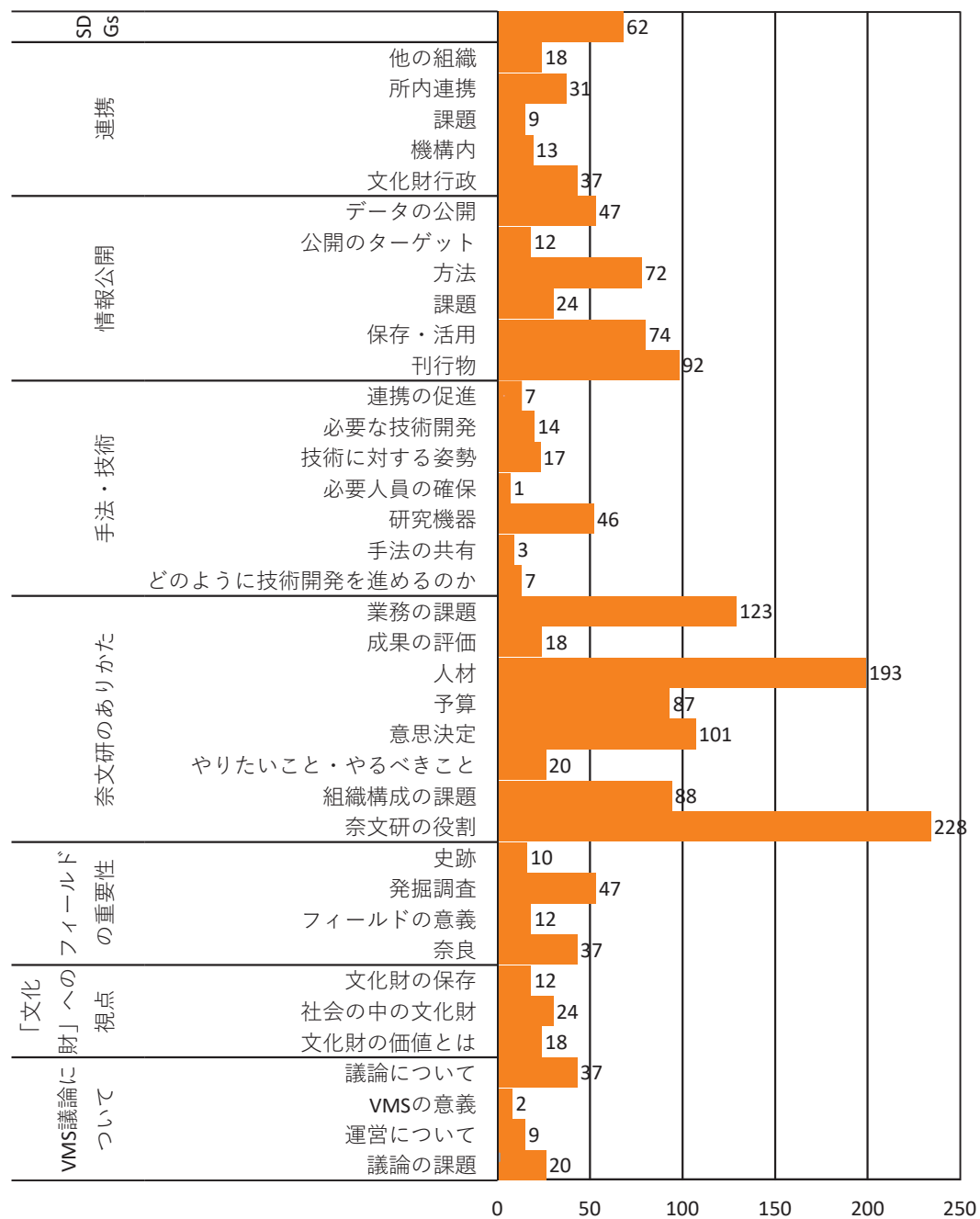
(6) 情報公開

- ① 刊行物
- ② 文化財の保存・活用について
- ③ 情報公開にあたっての課題
- ④ 情報公開の方法
- ⑤ 公開のターゲット（対象）
- ⑥ 研究データの公開

(7) 連 携

- ① 全国の文化財行政との連携
- ② 機構内での連携
- ③ 連携に関する課題
- ④ 所内の部局間での連携
- ⑤ その他の組織との連携

(8) SDGsへの取り組み



総合研究会に寄せられた意見